

“人財”育成で地域に貢献

清水合金製作所 マイスター・ハイスクール事業で

橋岡常任顧問が高校教員に

次代を担う産業人材を育成し地域に貢献。清水合金製作所は地域社会貢献の一環として、今年度から3年間、文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」の指定を受けた滋賀県立彦根工業高校に橋岡由男・常任顧問に取り組んでいる。



辞令を受けた橋岡氏(左)と青木氏(右)

マイスター・ハイスクール事業(次世代地域産業人材育成刷新事業)は3力年のモデル事業で、地域の産業界と専門高校、地方公共団体が一体となり、デジタル技術の進展に伴うビジネス環境の絶え間ない変化に対応できる最先端の職業人材育成システムを構築する。事業期間後は指定校

今回採択された全国12件のうち、近畿地方では唯一、彦根工業高校を指定校とし滋賀県教育委員会、彦根商工会議所、彦根市が共同申請した『変化への挑戦(Challenge for change)』。進取の気性を生かし持続可能な新たな地域産業を共創できる技術人材の育成が採択された。

文科省への共同申請に向けて組織体制を整えるなか、彦根商工会議所はマイスター・ハイスクールで事業実行の統括を担うCEOにSCORE ENホールディングス(本社・京都)の産業界実務家教員は清水合金製作所にそれぞれ社員の派遣を要請してい

た。伝統技術と最先端技術が共存する彦根市の産業基盤を活かす観点から、伝統技術については彦根の地場産業であるバルブ、仏壇、縫製を代表し、清水合金製作所が選ばれたという。会議所の関係者は「事業環境の変化に柔軟に対応し、保有技術に磨きをかけ成長してき

た。現在2年目以降の力リキュラムの枠組みを整えつつある。橋岡氏は青木政義CEOや学校関係者とともにシラバスの見直しや具体化に向けた検討作業に取り組む。橋岡氏は「本校には機械、電気と情報技術、建設と3学科あるため、具体的かつ少数のテーマに絞ることはできない。地元の産業界と大学とも密接に連携しながら多種多様な学びの機会を提供したいが、一方で、授業のコマ数は現時点で非常にタイト。そのため、新たなことを学ぶために削減が必要となる授業も出てくる。この難しさと責任の重さを感じながらも、やり甲斐を感じている」と力強く語る。



バルブ産業の歴史について講義

向けて組織体制を整えるなか、彦根商工会議所はマイスター・ハイスクールで事業実行の統括を担うCEOにSCORE ENホールディングス(本社・京都)の産業界実務家教員は清水合金製作所にそれぞれ社員の派遣を要請してい

た。現在2年目以降の力リキュラムの枠組みを整えつつある。橋岡氏は青木政義CEOや学校関係者とともにシラバスの見直しや具体化に向けた検討作業に取り組む。橋岡氏は「本校には機械、電気と情報技術、建設と3学科あるため、具体的かつ少数のテーマに絞ることはできない。地元の産業界と大学とも密接に連携しながら多種多様な学びの機会を提供したいが、一方で、授業のコマ数は現時点で非常にタイト。そのため、新たなことを学ぶために削減が必要となる授業も出てくる。この難しさと責任の重さを感じながらも、やり甲斐を感じている」と力強く語る。

高校関係者は「この取り組みを通して、工業高校の新たな価値と方向性を見出したい」とし、橋岡氏については「産業実務家教員として教育の現場で実験や実習の指導者となる役割に加え、教育カリキュラムやシラバスといった仕組みづくりに積極的に参画いただいている」と期待が大きい。清水合金製作所では常務取締役技術本部長として辣腕を振るい、モノづくりと後進の人づくりに邁進してきた橋岡常任顧問。その豊富な経験と知識が地域貢献の形で還元されている。